〈諸事項の報告・紹介〉

本間先生遺族からぞくぞく「お宝物」届く

愛知大学東亜同文書院大学記念センター
客員研究員　越知　專

平成22年２月５日、本間先生の長女殿岡晟子さんが、本間先生の直筆の手紙や勲二等瑞宝章、長男忠彦氏の万里子夫人は勲二等旭日重光章を、愛知大学長佐藤元彦氏に手渡した。

このように昭和62年６月７日の大学葬の時、遺影の前で披露された品々が全部愛大学に収蔵されたことになる。

遺影については旧学長室に、本間先生関係の資料は、本間喜一展示室に飾られており今後、旧学長応接室は勲章や叙位記、学生時代のノートや本間先生の出版図書などは本間喜一資料室、談話室にと改修されることを多くの人々が望んでいる。

それをふまえ、本間喜一遺族や関係者から筆者が頂いた手紙の主要部分を、了解を頂いて抜き出して見た。

「勲章もあるべき処に置かれる様にして頂き安心しました。」

「胸像も名古屋に安置されるものと確く信じております」

「上海から持ち帰った学籍を拝見した時、どんなに大変でありましたこと、その時代を知っております者として涙なくして拝見出来ませんでした」

「そうして更めて父の偉大さを感じております。さらに大学に対して、又、父に対しての卒業生の方々の熱い想いに触れ感激しております。」

また実家の方からは、

「設立直前の手紙（21年９月）を見れば、当時の叔父上様の御苦労が分かると思います。自分の事だけ考んるいやなく、困難な道を天命だと思って働いている。と書いてありますが、人間だれでも楽な方へ楽な方へと選ぶのが普通ですが、そこが普通の人と違う偉大なところで、そんな所に皆さんが尊敬しているのではないでしょうか。」

「貴重な書簡が陽の目を見ることが出来て、本当に良かったと思います。これも叔父上様の思いがそうさせたのかも知れません。いづれにしても埋もれてしまえば、叔父上様の本心の一部が分からずじまいになってしまうと思います。」

旧学長応接室で
左、倉橋健二本間ゼミ生（まちはたクラブ幹事）
本間忠彦長男夫人万里子さん
本間喜一長女殿岡晟子さん

「昭和22年６月11日の手紙では、「愛知大学の封筒（「陸軍」文字消す）創立後の初めの手紙と思はれますが、「昭和22年だと叔父上様は55位だと思いますが、「子供の時の様に甘ったれて」とありますが、年令には関係なく親の愛情を感じている様子がうかがわれ、又、「学生の事を思うと困

難の道を進む外ありません、天命と思って働いている」と書いてありました。こんな所にも本間イズが感じられるのではないでしょうか。」と結んであった。

なるほど昭和22年の手紙太字の萬年筆で書かれたものか、「陸軍」の便箋4枚、豊橋市高師石塚町38（旧師団長官舎）本間喜一とある。

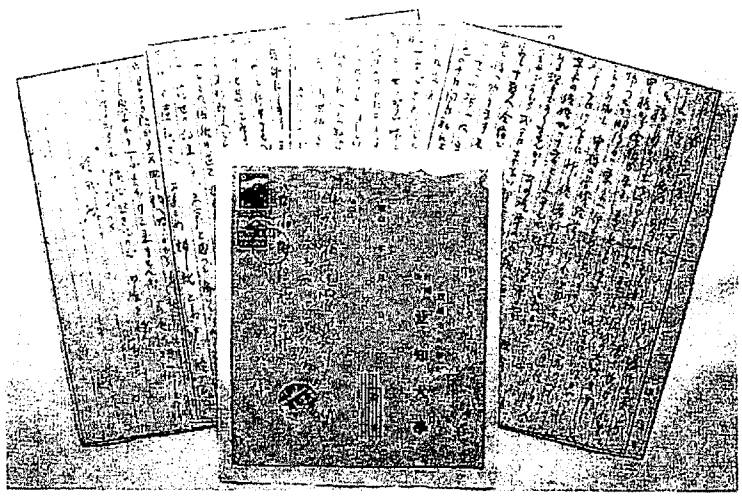
内容も上記のような苦労「私も神経衰弱になったのか、どうも書出しても書き続けられなかった。」から始まって、毎日の苦労話、「玉庭の十日間は私にとりほんとうに近頃にない保養でした。母上の健在な所を見まして、子供の時と同じ様に甘ったれて、浮世の苦労を一時免れた様でした」

「学生も食糧事情が悪いので勉強も続けられまいと思って、六月二十八日から夏休にします。」

「同僚、其の他学生の事を思うと、この困難の道を進む外ありません。これも前世の因縁と思い、宿世の約束事、天命と思って働いている。」

以上は、本間喜一先生の50才中頃の手紙の内容である。

当事者の切実な想いを記載させて頂いた。



「ぞくぞく」とする本間書簡

旧学長応接室にて
左、越知専（まちはたクラブ代表）さん、本間万里子さん、殿岡晟子さん、武井義和ポストドクター
佃隆一郎大学史事務室

豊橋市高師石塚町三八（旧師団長官舎）
本間　喜一（昭和22年６月11日）

帰省の節ハ大変御世話になりました。すぐ手紙を出すつもりでしたが私も神経衰弱になつたか とても書出しても書き続けられなかつた。福島から立ちつゞけ東京へ来ると引越の世話其中に豊橋から電報が来る 来て見ると京都大阪へ出張 昨日やつと帰つたが明後日ハ東京へ行かねばなりません。そして君の方も東京の引越も 豊橋の学校経営も何れも思ふ様に進行しません私としてはほんとに 神経衰弱になるのも無理がないと思ふ様です。

玉庭の10日間は私にとり ほんとに近頃にない保養でした 母上の健在な所を見るし、子供の時と仝し様に甘つたれて、浮世の苦労を一時免れた様でした。今度当地へ来てみれば判ると思ひますが 東京大阪に失業者の群がうようよしています どうしても其日を、食ふて行くか 之れが日本国民の九割通りが真剣になやんで居る所であります。働けば食ふに事欠かぬ先祖の財産を預つて居る君達には判らないかも知れぬが腕一本で さあ何でもやつて食ふて行つて見ろと云ふに、世間に生まれたら このせちがらい味を満喫させられます 我々の学校の様な不安定な経営の下にある事業でも、使つて貰ひ度い貰ひ度いと云ふて参り集まる人はうようよしている。

今後、国家の財政でも 会社事業でも赤字克服の為め人員整理をやることになれば どんな失業群が出来るか、恐ろしい世相を示して居る 而も赤字克服の為めには 整理の外手段かないと云ふ どん底に總てが追い込まれて居る、日本経済の実相は 危機と云ふ様な言葉で云ふには余りに深酷である。私共も殆ど賣食をやつて居る。

学生も食糧事情が悪いので 勉強も続けられまいと思つて６月21日から夏休にします 私は６月７日ハ寄附金集めをしなくては学校をやつて行けません ８月は目鼻をつけて小野川へでも行つて見度いと思つて居る。自分の事だけを考へると東京で弁護士をやるか才判所へでも入れば安易ですが 仝僚其他学生の事を思ふと この困難の道を進む外ありません 之も前世の因縁と思ひ 宿世の約束事、天命と思つて働いている。君もも少し世の中を達観され あきらめ 諦観と萬事に修養積まれんことを祈る。昨日京都から復員列車に乗つたが21才から八年間軍務に服し千島からシベリヤにやられ炭鉱の中で働きやつと帰還されたと云ふ兵士共と一緒に乗り合せました 此人達は岐阜で降りましたが 丸で浦島の様にして日本の様子を私に問きました。こんな人が3,000人舞鶴に上陸したが、シベリアには尚50万人居ります。この不幸を考へたら どんな苦労でも忍べると思ひます。君もよく考へて呉れ６月21日頃から又豊橋へ帰るから 少し世の中を見るたしになると思ふから一度出かけて来ませんか 玉庭の狭い所を許り見て居るから不満も起き〔る〕ものだ 御出を待つ

〔昭和22年〕６月17日　　本間

（文中〔 〕内は補足。本文一部省略）